

くりっぴ

CREATIVE LEARNING INFORMATION PAPER

子どもたちの創意ある学習活動をバックアップする情報紙



第8号

平成11年(1999年)
2月22日発行
広島県教育委員会

たくさんさんの声をありがとう。 もつと広がれ、 議論の輪！

今年度からスタートした義務教育

改革。広く県民の声に応える学校づくり

をめざして、一年にわたりアンケート

調査や開かれた意見交換の場を積極

的に開催してきた結果、さまざまな観点から多

くの意見をいただくことができました。

今後も皆さんの声をしっかりと聞きなが

ら、具体的な施策内容や実施方

法の検討をおこなっていききたいと

考えています。

生活と学習に関する
アンケート

(小5・中2/4,176人対象)

義務教育に関する
県民意識調査

(成人/2,000人対象・回収数1,166)

義務教育改革
公聴会の開催

(平成10年10月～12月
県内6会場参加者約500人)

教育長ホームページ
「ホットライン
教育ひろしま」開設

(平成10年10月～)
アクセス件数2,604件、
メール等受付件数81件



24時間いつでも、どなたでも—ネットでコミュニケーション

教育長ホームページ「ネットライン教育ひろしま」では、引き続き教育行政に対する意見を募集しています。教育改革等に関する情報提供も今後さらに充実させて、皆さんのアクセスをお待ちしています。

ホームページの
主な内容

- トップページ
- 意見記入ページ—様式にしたがって簡単に記入できます。
- 意見の広場—皆さんからいただいた意見を紹介しています。
- 教育委員会の主な施策紹介—義務教育改革への取組みや県民意識調査の結果などの情報提供をおこなっています。
- 関係機関へのリンク集—広島県ホームページに接続して県政情報を閲覧したり、文部省ホームページで新学習指導要領など最新教育情報にアクセスできます。

ご意見等は、広島県政
もみじファックスや
郵送でも受け付けています。

【教育長ホームページ】<http://www.hiroshima-cdas.or.jp/jpref/kyoiku/hotline/> 【県政もみじファックス】FAX082-224-1122 ボックス番号80034
【郵 送】〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会管理部秘書課 宛(「ネットライン」と明記していただけると幸いです。)

新しい学校の形が見えてきました。

平成14年度から完全学校週5日制が実施されます。これに対応した小・中学校の学習指導要領が示され、学校は国レベルでも変化のときを迎えつつあります。また広島県の教育について、公聴会・アンケート調査などを通じて寄せられた意見・要望は、学校間や家庭・地域との連携、教職員の指導力など多分野にわたり、義務教育改革に対する期待の大きさを感じています。新学習指導要領や公聴会、アンケート調査の結果などから、取り組むべき課題や方向性をさぐってみましょう。

新しい学習指導要領のポイント

各学校が創意工夫し、ゆとりの中で、子どもたちが自分で課題を見つけ、学び、考える力を育成することが求められています。具体的には次のような点が重視されています。

基礎・基本を
しっかりと
身につける

自然体験や
ボランティア体験
など体験的な
活動を大切にする

地域のこと、
環境、福祉など
について勉強する
「総合的な学習」
の時間を設ける

ゆとりの中で
生きる力を
育てる

特色ある
学校づくり
を進める



これからの課題と公聴会での要望・提言

基礎・基本を
身につけ、個性を生かす
教育を実現したい

義務教育段階においては、基礎的・基本的な学力を確実に身につけさせてほしい。そのうえでそれぞれの興味や可能性を広げていけるような環境づくりが必要で、教育内容・指導方法の改善や児童生徒一人ひとりに目が届く体制づくりを期待します。

【主な要望・提言(一部抜粋)】

- 複数の教員による学級の指導
- 少人数指導の実現
- 子どもと教職員がふれあう時間の確保
- 空き教室を開放し、子どもたちが自由に使える空間を確保

豊かな心を
はぐくみたい

思いやりや感謝の心を育てるため、植物の栽培やボランティア活動、職業体験など、実践を通じて学ぶ体験活動を積極的にとりいれてほしい。また、いじめや不登校などの問題に直面している子どもに対しては、家庭・地域との連携をしながらきめ細かい対応ができる体制づくりを期待します。

【主な要望・提言(一部抜粋)】

- 自然体験などをとおさう総合的な学習の時間の充実
- 社会体験など体験活動の推進
- 社会のルールを身につける指導の充実
- カウンセラーの全小・中学校への配置
- 不登校に対処する専門の先生や職員

地域に開かれた
学校にしたい

学校と家庭・地域の連携を強めていくためには、まず、学校の様子を知ることが大切です。また、地域の人材の積極的な活用をはかるとともに、随でも気軽に足を運んでもらえる、そんな風通しのいい学校を期待します。

【主な要望・提言(一部抜粋)】

- 保護者・地域の人だれもが参観できる学校
- クラブ・部活動での地域の人材の活用
- PTAの職員会議への参加
- 企業・施設等での教育研修の実施

地域社会で 自立して 生きる障害者に

県教育委員会では、昨年11月「盲学校、ろう学校及び養護学校における教育のあり方」を策定しました。盲・ろう・養護学校は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と同列の学校であり、障害をもつ仲間が共に学びながら、障害者としての主体を確立し、障害者として自信と誇りをもって生きていく力を身につけるための専門的な教育をおこなう学校です。自立とは、できないことをできるようにして健常者により近づくことではなく、必要に応じて援助を受けながら、主体的に豊かな生活を送れることではないでしょうか。「一人ひとりのニーズに対応しながら、多様な「自立」のあり方を展望し、本人や保護者が「盲・ろう・養護学校で学んでよかった」と思えるような学校をめざして、卒業後の進路や教育相談の充実、通学対策の充実等を視野に入れた環境整備を図っていきます。



これからの盲・ろう・養護学校 ～障害者として生きていく力を培う教育～

地域

相談

支援・助言

地域の障害児教育センターとして機能

盲学校

【特色】

点字指導、歩行指導、コンピュータ操作指導等の触覚・聴覚を活用した教育や視覚的な認知を高める教育を実施

ろう学校

【特色】

聴覚・口話・手話等の多様な手段を用いた言語指導、コミュニケーション指導を通じて言語の主体的な習得を促す教育を実施

養護学校

【特色】

地域活動や自主活動を積極的にとりいれ、障害者として地域社会で自立して生活していけることをめざした教育を実施

幼稚園教育の充実

交流教育の推進

自主的活動や地域での活動の促進

寄宿舎教育の充実

豊かな進路の確保

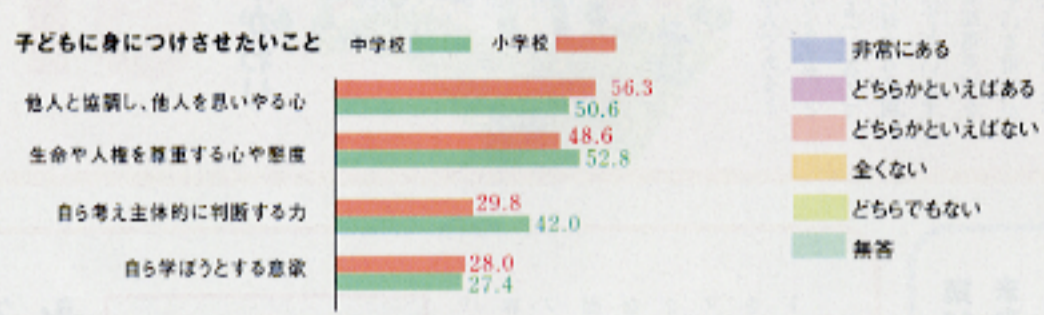
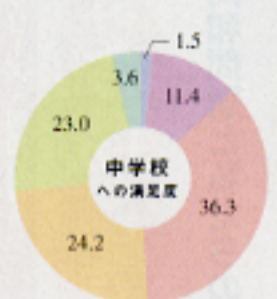


県民1166人に聞きました

広島県の義務教育、ここが不満、ここに期待

ここに期待

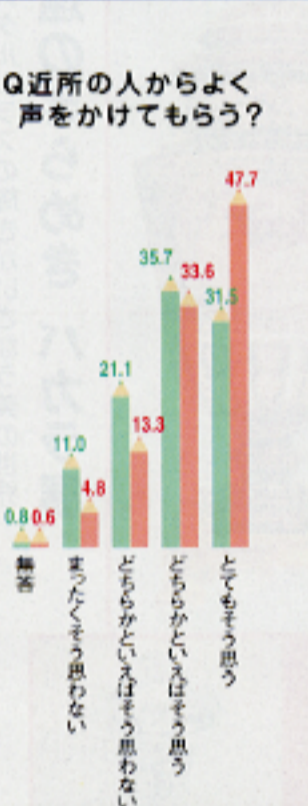
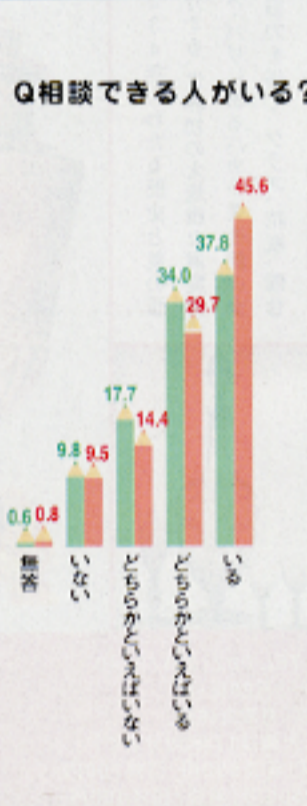
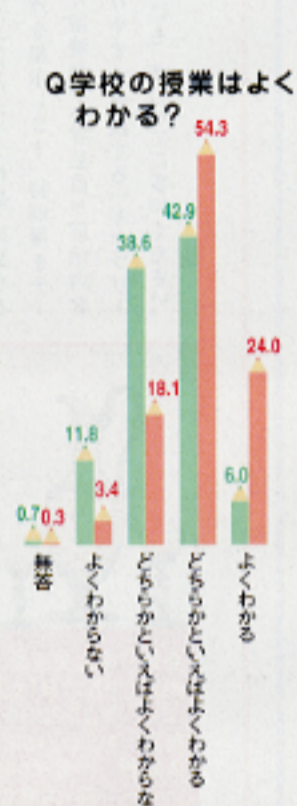
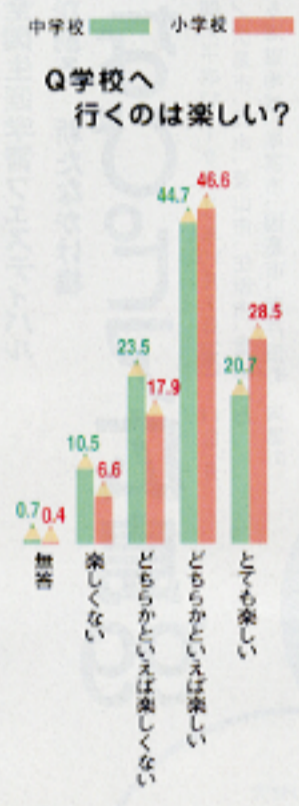
平成10年8月、満20歳以上の県民を対象に「義務教育に関する県民意識調査」をおこないました。義務教育に「関心をもちている」人が75.5%と非常に高い反面、小・中学校の現状に対しては「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えた人は小学校22.2%、中学校12.9%にとどまっています。改善を求める点としては「心の教育」や「教職員と子どもとの信頼関係」「教職員の指導力」などを求める声がありました。



小・中学生4176人に聞きました

学校に行くのは楽しいけれど...

子どもたちの実態を客観的に把握するため、県内公立学校の小学5年生と中学2年生約4000名を対象に「生活と学習に関するアンケート」をおこないました。多くの子どもたちが「学校が楽しい」と感じる一方で、中学2年生では約半数が「授業がよくわからない」と答えています。また半数以上の子どものみが「毎日忙しい」と感じており、約2%が「相談できる人がいない」と答えるなど、子どもたちを取りまく厳しい状況が明らかになりました。



※これらの調査結果などが、必要な方は次のところまでご連絡ください。【教育企画課 調査課係 TEL082-228-2111(内)4988】なお教育長ホームページ「ホットライン教育ひろしま」でも見ることが出来ます。

義務教育改革2

実践を通して考える

ニュースクールモデル事業

義務教育改革が着実に成果を上げるためには、明確な方向づけとともに、どう実践していくかという方法論の確立が不可欠です。そこで県内の公立小学校・中学校各6校を実践研究協力校として指定し、研究をおこなっていくことにしました。指定校では学校規模等の特色を生かした研究テーマを決め、平成11年度から本格的な取り組みをスタートさせます。なおその研究成果は平成12年度中にとりまとめ、発表する予定です。

- ニュースクールモデル事業 指定校名
- 小学校**
 - 廿日市市立宮園小学校
 - 呉市立昭和中央小学校
 - 高宮町立川根小学校
 - 豊郷町立津久志小学校
 - 福山市立南小学校
 - 東城町立栗田小学校
 - 中学校**
 - 龍美町立龍美中学校
 - 東広島市立志和中学校
 - 芸北町立芸北中学校
 - 豊町立豊中学校
 - 福山市立廣取中学校
 - 口和町立口和中学校

主な研究テーマ

1. 基礎・基本の定着をめざした効果的な指導内容・指導方法の研究
2. 地域に関わった学校づくりの研究
3. 情報、環境、福祉等の総合的・横断的な学習についての研究

子どもたちの問題行動防止にむけて

「問題行動に関する防止学習プログラム」
「生徒指導ハンドブック」を公立学校に配布
最近の子どもたちの問題行動は、凶悪・粗悪化、低年齢化の傾向がみられます。県内でもナイフを使用した傷害事件や金銭強奪、暴力行為が頻発するなど、深刻な状況が続いています。こうした現状に歯止めをかけ、子どもたちが自己実現を図りながら自律した生活を送れるようにするために、県教育委員会では次のような取り組みを推進し、取り組んでいます。

- 人間としてのあり方・生き方に対する自覚を深めさせるとともに、心の教育を充実させ、子どもたちが自己実現を図ることが出来る教育の推進
- 基本的な倫理観・規範意識を育てる教育の推進
- 問題行動を未然に防ぐ教育の推進
- 問題行動に迅速に対応し、再発防止に向けた指導体制の確立

そのための取組みのひとつとして、問題行動の発生や再発を防止するための具体的な考え方や方法を示した指導資料として「問題行動に関する防止学習プログラム」と「生徒指導ハンドブック」を作成し、学校に配布しました。今後、この資料をもとに研修を行い、安全で安心して生活できる学校づくり、家庭・地域・関係機関と連携・協力し開かれた連携によって解決を図っていくための方法

「問題行動に関する防止学習プログラム」の主な内容

- 1 学校における教科指導と生徒指導のあり方と見直しの視点
- 2 家庭・地域社会の学校教育への積極的参加により、三者が一体となって子どもたちを育てていくための考え方や方法
- 3 子ども自身自身がストレスを自覚し、それをコントロールできる力を育成するための学習方法
- 4 体験活動や役割演技などを通して人間関係を調整できる力を育成する学習方法
- 5 模擬対決や話し合いを通じて社会のルールや規範について考え、規範意識を高めていく学習方法

「生徒指導ハンドブック」の主な内容

- 1 すべての子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、学校での生徒指導体制や、教育相談体制の確立
- 2 子どもたちの問題行動に対する指導の考え方や決め方
- 3 問題行動を学校だけで抱え込まず、家庭・地域・関係機関と連携・協力し開かれた連携によって解決を図っていくための方法

みんな大切なひとりです

同和教育と私たちのかわり

私たちは、地域社会や職場の中で、お互いが人権を尊重しあい、認めあひながら、暮らしたり、仕事をしたいと思っています。

また、子どもたちにも、いじめや差別のない学校でのびのびと自分を表現し、その力を最大限に伸ばして、いつかほしいと願っています。



しかし、1993(平成5)年度の同和地区実態把握等調査によれば、「あなたは、今までに同和地区の人であるという点で人権を侵害されたことがありますか」という問いに対して、46.8%の人が「ある」と答えています。この調査結果は、同和地区の人に対する差別意識が今もなお根強く残っていることを示しています。

現在、私たちのまわりには、このような部落差別をはじめとするさまざまな差別が存在している現実があります。では、これらの差別をなくし、すべての人が人間として尊ばれる民主的で明るい社会をつくるために、私たちはどうすればいいのでしょうか。

「自分は差別していないから無関係だ」という声を聞くことがあります。しかし、これまで差別の存在が私たちのいろいろな権利の確立や真の民主的な生活の実現をはばんだことを振り返ってみると、「関係ない」ですませてしまう態度が自分自身の基本的人権が尊重されないことにつながっていくことは明らかです。

同和教育をはじめあらゆる差別の問題を解決するためには、私たち一人ひとりが身のまわりにある不合理や矛盾を明らかにし、それをなくしていくこととする意志と行動力を持ち、差別の問題を自分自身の生き方の問題として考え、いじめや差別が学校・家庭・地域・行政が一体となって、同和教育の早期解決をめざす取り組みをすすめていきたいと思います。

私たち自身のために、そして、すべての子どもたちのために。

クリスタルガラスの輝きがいざなう美の世界 永遠のきらめき バカラ展



バカラ234年にわたる歴史と美の世界を紹介する、世界初の大規模な展覧会。フランス・パリにあるバカラ美術館の全面的な協力を得て、グラス、花瓶、燭台などのクリスタルガラス作品、図面など290点を展示します。特別展をテーマにした講演会や、学芸員が展示内容をわかりやすく解説する「ギャラリートーク」にも、あわせてご参加ください。



会場 県立美術館 TEL 082(221)6246
 期間 2月17日(水)～3月28日(日)
 ※3月22日を除く月曜日休館
 時間 10時～18時(入館は17時30分まで)
 入館料 一般/800円(前売650円・団体700円)
 高・大学生/500円(前売・団体400円)
 小・中学生/200円(前売・団体100円)

講演会 「バカラ作品に見るガラスの歴史」

2月27日(土) 14時～事前に往復はがきで申し込みください。
 ギャラリートーク 2月19日(金)、26日(金)、3月5日(金)、12日(金)、19日(金)、26日(金) 11時～(各回共通)



第11回全国生涯学習フェスティバル まなびが創る 新たなかけ橋

まなびのひろしま'99

開催期間/平成11(1999)年10月7日(木)～11日(月)
 開催地/広島市、呉市、福山市、庄原市、東広島市、しまなみ海道地域(尾道市、因島市、瀬戸田町、向島町)

実行委員会では次の参加事業を募集しています。

学ぶ楽しさ生かす喜び

まなびピアは、個人、団体、企業、学校などの皆さんが生涯学習に関する事業を自ら企画、運営、実施する参加型の祭典です。



生涯学習 見本市での出展

●日時/10月7日(木)～11日(月)
 ●会場/広島県立総合体育館
 学習や活動のための多様な情報、教材、商品、サービス、まちづくりの実践例を展示・発表していただきます。
 出展料(1小間30万円)が必要です。

シンポジウム・講演会等の各種事業

●日時/10月7日(木)～11日(月)
 開催期間中に開催地の会場においてフォーラム、発表会、交流会等の事業を実施していただきます。

生涯学習 体験広場

●日時/10月7日(木)～11日(月)
 ●会場/広島県立総合体育館
 およびその周辺地域
 日頃の活動をステージで発表したり、各種の活動、遊び等の教室を行い、来場者に学習活動の体験や交流を实践していただきます。

問い合わせ先
 第11回全国生涯学習フェスティバル実行委員会事務局
 〒730-8514 広島市中区基町9-42
 (広島県教育委員会生涯学習課内)
 TEL082-228-2111(内線5015)
 FAX082-212-3331

家族で遊ぼうホリデー

おでかけガイド



略記号の見方

□=内容 □=参加対象者 □=時間
 □=場所 □=申込先 □=問い合わせ
 ※詳細については、□に確認ください。
 □には、ひろく(無料)の児童・生徒などを含みます。
 □の表記がないものはどなたでも参加できます。

- A 2/5(土)・4/4(日)**
博物館部門展「近世の絵画」
 岡田豊、押絵など、近世の生活と文化を彩った絵画の数々を展示
 9時～17時
 県立歴史博物館 082(221)6246
- B 2/27(土)**
子どもギャラリートーク
 「金光松美―二つの祖国」
 岡田豊をもち、学芸員が所蔵作品を紹介しながらわかりやすく説明します
 小学生・6年生
 11時～
 事前に往復はがきで申し込み
 県立美術館 082(221)6246
- C 2/27(土)**
こども文化財教室
 「ふんのかんざし」
 岡田豊野鳥保連通会員の指導による野鳥かんざし
 小学生・中学生及び保護者
 10時～12時
 県立歴史博物館 082(221)6246
- D 2/27(土)**
こども歴史相談室
 岡田豊をもち、岡田豊の絵画が展示されます
 小学生・中学生
 9時～17時
 県立歴史博物館 082(221)6246
- E 3/6(日)**
松の「コモ外し」
 岡田豊の中にいる青虫マツカレハが樹上に帰る前の最後の日、「コモ」を取り外しマツカレハと一緒にお別れします。
 9時～
 国府宮園 082(221)6246
- F 3/6(日)**
歴史トーク
 「中国山地の民話―越原はなし」
 岡田豊による調査・研究発表とミニフィクション、授業に役立つ教材づくりのヒントを伝えます
 14時～18時
 県立歴史博物館 082(221)6246
 ※教員の参加もお待ちしています。
- G 3/7(日)**
展示解説会「近世の絵画」
 10時30分～
 県立歴史博物館 082(221)6246
- H 3/13(土)**
博物館講座
 「近世の絵画―菅茶山と交流のあった二人たち」をテーマに講演
 14時～
 県立歴史博物館 082(221)6246
- I 3/18(土)・19(日)**
輝け新社会人の集い
 岡田豊をもち、新社会人としての心得、職場マナー、クリエイションなど
 新しく社会人になる人
 18日12時～19日12時
 ふれあいの里青年の家
 082(221)6246
- J 3/21(日)**
桃見茶会
 岡田豊の桃見茶会を機会に開催される茶会
 10時～15時
 国府宮園 082(221)6246
- K 3/21(日)・22(月)**
サッカー教室
 岡田豊をもち、サッカーの楽しさを伝える
 交流試合などを通じて基本技術の向上と参加者相互の交流を図ります
 中学生サッカーチーム
 21日9時～22日16時
 ふれあいの里青年の家
 082(221)6246
- L 3/27(土)**
子どもギャラリートーク
「日本画の楽しみかた」
 岡田豊をもち、学芸員が所蔵作品を紹介しながらわかりやすく説明します
 小学生・6年生
 11時～
 県立美術館 082(221)6246